

平成24年度第1回広島市スポーツ推進審議会 会議録

I 開催日時

平成24年12月20日（木） 午前10時00分～午前11時30分

II 開催場所

広島市総合屋内プール会議室（広島市東区牛田新町一丁目8番3号）

III 出席者

1 委員 20名中15名出席

梅本委員、大澤委員、小野委員、梶原委員、亀田委員、小林委員、崎田委員、曾根委員、鍋島委員、西野委員、西原委員、東川委員、古川委員、山下委員、山本委員
（欠席：赤川委員、中本委員、福岡委員、本川委員、満田委員）

2 オブザーバー 3名中1名出席

宮原オブザーバー
（欠席：中野オブザーバー、藤岡オブザーバー）

3 事務局（市）

市民局文化スポーツ部長、スポーツ振興課長、教育委員会学校教育部指導第一課文化・スポーツ教育担当課長

IV 会議次第

1 開会

2 議事

（1）会長及び副会長の選出

（2）報告事項

3 閉会

V 公開・非公開の別

公開

VI 傍聴者

0名

VII 会議資料

平成24年度第1回広島市スポーツ推進審議会 次第

広島市スポーツ推進審議会委員等名簿

平成24年度第1回広島市スポーツ推進審議会配席図

議事関係

報告事項（広島市のスポーツ振興に関する平成24年4月以降の主な動き）

【参考資料】

広島市スポーツ振興計画の概要

F I F A U - 2 0 女子ワールドカップジャパン 2 0 1 2

広島市スポーツ指導者シンポジウム

当日、山下委員から提供された資料

特定非営利活動法人広島トップスポーツクラブネットワークの平成 2 4 年度事業計画（案）

Ⅷ 会議・発言の要旨

1 開会

2 議事

（１） 会長及び副会長の選出

〔スポーツ振興課課長補佐〕

委員改選に伴い、改めて、会長及び副会長の選出を行う。

当審議会の会長及び副会長は、広島市スポーツ推進審議会条例第 5 条第 2 項において、委員の互選によって定めることとなっている。

御推薦、御意見等があったらお願いしたい。

〔梶原委員〕

委員改選の前に会長・副会長を務めていただいた東川委員と小野委員に、スポーツ振興計画の策定の取りまとめをしていただいた経緯があるので、大変負担を掛けるが、引き続きお願いするのがよいと考え、推薦したい。

〔全委員〕

異議なし（拍手）。

〔スポーツ振興課課長補佐〕

皆様の賛同をいただいたので、会長は東川委員、副会長は小野委員にお願いしたいと思うが、東川委員、小野委員、いかがか。

〔東川委員・小野委員〕

了解

〔スポーツ振興課課長補佐〕

本人より了解をいただいた。

東川会長と小野副会長に一言ずつ御挨拶をいただきたい。

〔東川会長〕

ただいま皆様から会長を拝命した。皆様から様々な意見をいただきながら、振興計画を策定した後のこれからの進め方について、「さすが広島だ」と言われるような展開ができればと考えている。力不足ではあるが協力をお願いする。

〔小野委員〕

引き続き、皆様の御協力をいただきながら、勉強させていただきたい。

〔スポーツ振興課課長補佐〕

それでは、これからは会長に議事の進行をお願いしたい。

(2) 報告事項

〔東川会長〕

議事(2)の報告事項について、事務局に説明をお願いする。

〔スポーツ振興課長〕

会議資料「報告事項（広島市のスポーツ振興に関する平成24年4月以降の主な動き）」に基づき報告

〔東川会長〕

ただいま事務局から報告いただいたことなども含めて、日頃、委員の皆様が考えている広島市のスポーツ推進等について、改選後最初の審議会ということで、お互いの考えを知ることとも大切だと思う。皆様の御意見を聞かせていただきたい。

〔梅本委員〕

私が市職員だった頃、特に区役所勤務の際には、町内会のスポーツ大会等に来賓として出掛けることが多かった。町内会の加入率が低下する中で、地区の体協の努力もあって、子どもから高齢者まで、たくさんの方が参加し、楽しんでおられる姿を見る度に、スポーツが地域の活性化に役立っていると感じていた。

安佐北区では、コカ・コーラウエスト・レッドスパークスがあり、今年から区役所として地元と一緒に応援している。チームの選手も児童館で指導を行うなど、地域活動に取り組んでおり、児童にとっても憧れの選手から指導を受けられることは、底辺の拡大につながると思っている。

現在私が在職している公益財団法人広島観光コンベンションビューローでは、国際会議、全国大会等の広島での開催に向けた誘致・支援等を行っている。広島に来ていただき、泊っていただき、食事をしていただき、お金を落としていただくということで経済波及効果を狙っている。スポーツ大会の開催やそれに関連する会議についても、支援するところであるので、そういう情報があれば、是非御一報いただきたい。

〔大澤委員〕

初めてこの会議に出席し、資料を見た。スポーツに力を入れている広島市に感謝したい。

私は矢野南体協に所属し、硬式テニス部の副会長をしている。平日の午前中はシニアの方達とプレーしており、その中で、気付くことを述べたい。

シニアのメンバーの中に、10年以上、朝7時過ぎからコートの整備に来て、黙々とこなして帰る方がいる。その方が去年の12月から、病気でテニスができなくなった。ところがテニ

スができなくても毎朝7時半にコートに現れて整備して帰る。夏の暑い中でも、重篤な病気であるにも関わらず、酸素を車に積んできて、整備をする。最近は整備ができなくなって、箒で掃いたり、ゴミを拾ったり。それもできなくなって、コートに来て整備する人の姿を座って見ているだけになった。12月に入って、風邪をひいて入院され、コートに来ることも叶わなくなった。こういった方のお陰で、矢野南のテニスコートは、かなり老朽化して傷んでいても、何とか使えるようにしてきた。しかしそれも限界にきている。

全国的にもインフラの老朽化ということで、予算の関係もいろいろあるだろうが、一市民がこうした活動をしていることを知っていただきたく、お話をさせてもらった。

〔梶原委員〕

スポーツは「する・見る・支える」と大きく分けるとこの3つ、そこに「子ども達を育てる」ということを含めて、スポーツとの関わり方があると思う。

私どもの団体は、平成14年に広島市体育協会とスポーツ施設の管理を行っていた広島市スポーツ事業団を統合し、ソフトとハードの総合的なスポーツ振興に取り組む民間団体として存在している。平成23年4月には、公益財団法人に移行した。

民間としてスポーツを推進していくということで、私どもには、学区体協の上部団体である区体連に加入いただいている。競技団体以外にも、地域のスポーツ団体も構成員になってもらうことで、行政では取り組みにくい、まさに地域のスポーツそのものに関わった仕事をしていく役割もあると思っている。

市が策定したスポーツ振興計画の中には、私どもが担うべきであろうという方向も載っている。それを踏まえて、現在、協会としての独自の推進プランを策定中であり、皆様のご意見を踏まえながら、早期に取りまとめて、市の計画の具現化について、協会として取り組んでいきたいと考えている。

〔亀田委員〕

総合型地域スポーツクラブとして、白島小学校、幟町中学校を拠点に活動している。現在、会員320名余りを抱え、12種目を行っている。

特に今、運動する場所が少ないことが一番ネックになっている。現在でも、クラブに入りたい人は多くいるが、グラウンドも体育館も埋まってしまい、ちょっと使用できる状態にない。中学校施設を空ける方法はあると思う。例えば小学校の学区体協が中学校を使用している場合は、それを小学校利用にすれば中学校を空けることができる。今、そうすることによって幟町中学校を確保している。

会員は学区外在住者がかなり増えている。これというのも広島市の中区の一番中心にあるのがこの幟町中学校で、この近辺に勤めている人、専門学校の生徒たちが増えてきているからだ。スポーツをしたいけれど、自分の区へ帰るまでに時間がかかって、帰ってからスポーツをすることがなかなかできないという人が多い。こういう人たちを支援するために、総合型を始めた訳である。

今のところ、場所が一番の問題。金額的なものは、年間2,000円の会費で運営できている。各部ごとで、大会を開くとか、親善交流試合をする場合には、部費を集めてもらって運営している。今、集めている会費は、年度初めに、各部に練習用具を補充するために使っている。体育館ならテープ、ネットを買うとか、グラウンドなら年1回、清掃並びに整備ということで、土を購入して入れている。学校を使わせて貰っている以上、それくらいのことはいやというということで、スタッフ皆で意思統一しているので、その点は上手く回っていると思う。これからも各地区で総合型を

多く取り入れていただいて、中学校を空けて多くの人を受け入れていけたらと思う。

〔小林委員〕

広島市小学生体育連盟は、およそ40年あまり前からある団体であり、団体種目でサッカー、ミニバスケットボール、バレーボール、個人種目で陸上、水泳、体操、卓球の7つの競技で構成している。

これら共通の課題を挙げると、指導者の育成が話に出てくる。経験者でない者も指導しているが、指導方法の研修をしながら指導技術を高めていくよう努めている。もう一つは、競技によって小から中・高、一般にかけての縦の連携の度合いが違うということだ。私は陸上を担当しているが、協会とつながりを持つ中で、協力いただきながら、活動できている。

平成元年から始めた小学生の駅伝大会も、当初は数10チーム、古川の河川敷で始めたが、企業にもお手伝いいただきながら、来年で第25回となり、400チームあまりの参加がある。

子どもというものは、学校だけでなく、保護者や地域も一緒になって育てるものと考えている。これからは社会全体で子ども達を育てていきたいと思っている。

〔崎田委員〕

広島市のスポーツ推進には直接関係ないかもしれないが、是非、この場で提案したいことがある。

東日本大震災が起きて、およそ2年が経とうとしている。その間、審議会が開かれたが、その時、震災に対する意見や言及はなかったと記憶している。私もその場にいたので、そのことが非常に心残りになっており、今回改めてお話をさせていただきたい。

スポーツ振興計画は、5年で中間評価、もしかしたら見直しがあるかもしれないということなので、是非その時には、東日本大震災を踏まえた直接的・間接的な提案をスポーツ振興計画に反映していただければと望んでいる。

具体的に言うと、直接的には、広島市におられる被災者のスポーツからの支援。間接的には、今の東日本大震災の状況をみての施策を、この場におられる方々の意見を取り入れて反映させるということがある。個人的には、震災で無くなっていったスポーツイベントがたくさんあると思うが、広島市もそういう状況になってはいけないので、地域の細かいスポーツ行事を残していくような施策があってもいいのではないかなと思う。

〔曾根委員〕

この広島市スポーツ振興計画の概要を改めて見ると、国もスポーツ基本法を制定し、新たなスポーツ政策を打ち出したが、国の政策に沿った計画になっていると感心している。

皆さんも非常に関心があると思うが、これからの広島市のスポーツを推進していく上で、この広島市スポーツ振興計画の概要の3ページ「基本方針4：まちの活力創出に向けたスポーツの振興」の「トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興」の「民間主体のサッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援」について、これから非常に問題になっていくのだと思う。先日も市長が平和公園でのサンフレッチェの優勝報告会で、非常に慎重だが、気合いの入った御挨拶をなさって、大丈夫かなと思いながら聞いていた。新しい委員の方がいらっしゃるので、一言申し上げると、広島市スポーツ振興計画を策定する時、サンフレッチェの社長の本谷さんがおられ、「民間主体」を入れるか入れないかと喧々諤々、議論した。「サッカー専用スタジアム整備の気運に呼応した支援」と書くと、まるで広島市が造るように

思われるという意見と、「民間主体」を入れると、広島市がまったく応援していないように思われるという意見があった。ここのところが非常に問題になってくるし、委員もいろいろな所から聞かれるかもしれないので、見解を統一しておいた方がいいと思う。

〔鍋島委員〕

一点の質問と、意見を述べる。

一点の質問は、最初に報告のあった広島市スポーツ推進委員の委嘱の件だが、枠内に納まっているのかどうか。というのは、最近、若い人が物事をする時、幹事とか、人の世話をすることをなかなかやらなくなっている。組織中心に社会を作ってきた時代から、個人中心の時代に移ってきている。人のことをあまり考えず、自分のことだけをする社会に移った時、なかなか人が集まらない。事例をあげると民生委員とか、人権擁護委員、身近なところでマンションの理事長まで、最近はそのような指導的な役を嫌うようになってきている。そういう中で、体育指導委員は「指導しなければならないから嫌」という人がいたかもしれないが、スポーツ推進委員という名称には、「指導」とつかないから、結構引き受けやすくなったのかなと思った。今、指導者のための研修には人が集まらない。一般的に何々予防のための研修といったら、人が集まる。プレーパークをやるといったら家族、子どもがいっぱい集まってくるが、そのプレーパークをやる指導者を養成する研修には人が集まってこない。「指導」がつくと集まりにくい社会。そういう中で、スポーツ推進委員という名称で、枠内に納まっているのかどうか知りたい。

もう一点、自分自身の意見を述べさせてもらいたい。吸収・圧縮・爆発・排気という車のエンジンの構造を頭に入れると、社会の活動というのは、そういう形で回転しているのではないかと思う。しかし、今の社会は吸収と圧縮で止まり、爆発がない社会になっている気がしてならない。美味しい物をいっぱい食べ、吸収して圧縮するが、爆発がない。便利で豊かな生活のもと、爆発というスポーツとかレクリエーションという活動が欠けてしまうと、メタボリック症候群とか、小学生の体力低下を招くというのが社会の事実ではないかと思う。爆発について、これからどういう形でスポーツが地域の役割を果たしていくかということが一つ課題だと思う。

2000年に掲げられた厚生労働省の健康日本21があるが、10年経って検証をした。当時、日常生活の中での歩数を増やすとか、運動習慣の割合を増やすという目標を掲げていた。10年経てみると、歩数は減っているし、運動習慣も伸びていないという結果が出た。健康というキーワードで人は集まらない。健康のためにスポーツをやって、息切れがして、それが嫌でやめて、スポーツ嫌いを作るという循環ができつつあるのではないかと思う。

何が必要かという、スポーツを楽しむことだと思う。生涯スポーツの原点はスポーツをどう楽しんでいくか、そこをしっかりと指導できる人を輩出させておかないと、スポーツのノウハウだけを伝えるのでは、スポーツ振興はできないのではないか。

スポーツが持っている遊戯性、本質的な楽しさを引き出すことができるリーダー、指導者を育成していかなければならない。指導者と名がつくと人が集まらないという課題と、指導者がいないとスポーツは普及しないというジレンマに陥らないように、しっかりした施策を出していきたい。

〔スポーツ振興課長〕

ただ今の質問について、スポーツ推進委員の定数は403名で、今委嘱しているのは378名と、若干定数に達していない。いくつかの課題が指摘されている。学区の規模によって定数を2名、3名、4名と定め、男女1名以上としている。今、地域では、女性であれば定数を確

保できるけれど、男性1名が難しいという傾向にある。例えば、定数3名の所であれば、女性2名であと1名は欠員になっているが、全員女性なら3名を確保できるという声もある。もう一点、定年を65歳までにしているが、初めての方については、55歳未満としている。結果リタイアして地域でお手伝いしようとした時に、ちょうど引っ掛かる。今、25名欠員になっているが、そういうところにも影響があると見ています。

今回、先ほど説明したスポーツ推進委員研究大会の際に、アンケートを実施した。今年3月の審議会で、短期的な取組として、いろいろ意見を伺うところから始めたいと、いくつか取組を紹介したが、そのうちのひとつとして実施したものだ。今のような課題をどのように認識しているか、ここらを整理しながら、小野副会長と解決していかなければならないと考えている。

〔小野副会長〕

広島市スポーツ推進委員協議会は、定数403名で、今378名だが、いろいろな行事のとき403名いれば助かる。市のスポーツレクリエーションフェスティバルにも全員が参加してお手伝いするが、403名揃って活動できることが一番だと思っている。学区体連の会長から推薦があって403名揃うことになるので、会長にもお願いし、この1年の間に少しでも403名に近付くようにしていきたいと思う。

〔西野委員〕

スポーツ振興計画の概要にも「障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進」とあるが、広島市障害者福祉センターでは、障害のある方のスポーツ活動を支援している。当センターを知ってもらうために、地域に出向いての地域活動やスポーツセンター、公民館等を利用した活動と普及も行っている。

主な仕事はスポーツの指導になるが、国体の後に行われる全国障害者スポーツ大会への選手の派遣や選手の育成、全国障害者スポーツ大会の予選活動も行っている。

学校のPTC活動への支援は保護者の依頼があれば、出向いて行っている。各地域で作られている障害者のサークル支援、レクリエーションを主体とした運動会等もセンターで行っている。センターでは障害のある方へのスポーツの支援はもちろん、障害のある方とない方との交流を通して、仲間づくりを支援できればと考えている。

笑いのあるスポーツ、笑顔のあるスポーツ、スポーツが終わった後に、気持ち良かったという充実感と、次はどうしたいという目標を持ってスポーツを行っていけるような普及活動をしていきたい。

〔西原委員〕

今年1年を振り返ってみると、サンフレッチェの優勝を含めて、トップスの活躍があり、私たち取材記者にとっていい1年であったと感じている。1つの勝利とか優勝が、地域とか市民を元気づけるということを、パレード等を見ながら実感した。

今年の大きなイベントとしては、ロンドンオリンピックが開催され、うちも記者を1名派遣した。スポーツ指導者シンポジウムではその記者を講演に行かせた。広島から出たメンバーが頑張り、過去にないくらいの出稿量となったが、中国新聞として特色ある五輪報道ができたと感じている。

その一方で、今課題に出てきているのは、サンフレッチェの経営を含めて、サッカースタジアムの問題。それに対して自分達はどう向き合っていくかというところで、運動部としてもで

きる範囲で、今の課題は何か、どういうふうを考えていくかという実情を分析していくことになってきていると思う。

ただ一方で、スポーツ振興に限らず、いわゆる市政・県政の課題となっていくというこのスタジアム自体は、広い視点で見ていく必要がある。スタジアムはサッカーだけのものでいいのか、広島にとってプラスα加えられるとしたらどんなものが必要なのか、必要なものを考えていけば場所も決まるだろう。すると全体の中で、ビッグアーチはどうするのかとか、いろいろ課題が出てくる。そのアプローチはいろいろあると思う。スポーツの施策の中のサッカースタジアムを中心に考えながら、全体の施設の配置を考える。そういう部分について考えていく必要があると思うが、その中で、普段の行動を通して様々な情報等、時には主観を踏まえたものを提供できたらと考えている。これからどんどん議論していったって、とりあえず市民がどういうものが必要だという議論からスタートしなければならないと思う。そういう声を拾っていきいたいと思う。

先月、仙台に行く機会があった。サンフレッチェと仙台という地方の小さい規模のクラブが優勝争いをするというのは関心が高く、その一方で、持続可能なものにできるかということがある。ビッグクラブでさえ2年3年というところで、強いチームを作っていくのは大変な時代であり、予算、経費的なもの、地域がどのようにスポーツを支えていけばよいか、検討していきたい。

〔古川委員〕

広島市学区体育団体連合会では、130学区を束ねている。組織的には1つの学区、それを区で束ねたものが区体連、それを束ねたものが市体連ということで、学区におかれてスタッフが50名、多いところで200名いる。恐らく市体連全体としては、1万名近いスタッフがいると思う。それは当然、根が町内会であるのでそうなる。いずれにしても地域のスポーツ活動なので、受け皿になり、しっかり推進していく、旗振り役もやるということだが、町内会が根っこであるので、スポーツ以外にいろいろな顔がある。児童の登下校の見守りをしたり、祭では神輿を担いだり、地域によって温度差はあるが、いろいろ活動して頑張っている。

いよいよ来年は、創立50周年を迎え、記念大会を実施する。先達の残された非常に大きな教訓や姿勢があるので、これを機会にスポーツ推進委員を両輪として地域のスポーツ活動を実施していきたいと思う。

活動的にはいろいろなスポーツをする。ここにおられる委員にも研究大会に講師で招き、貴重な意見・鞭撻をいただいている。皆が等しく情報を持って、地域に持ち帰って、地域を活気づけて、その素晴らしさを広めていきたいというのが我々の念願である。

〔山下委員〕

トップス広島は平成12年に発足した。現在、サンフレッチェ、JT、湧永、メイプル、広島ガスバドミントン、NTTソフトテニス、中国電力陸上競技、コカ・コーラホッケー、広島カープの9チームで活動している。その中で、フロントの担当者が月1回集まり、今日配った行事の日程、選手の派遣等について、いろいろ調整する活動をしている。

その中で、「DOスポーツ」は広島市教育委員会から派遣要請がある。平成23年度は、広島市内の小学校65校に派遣し、9チームの選手336名が児童数4,952名に8種目の競技を指導した。子どもが中国新聞に投書して、記事が掲載された。

以前、曾根委員から大学生は素晴らしい資源・財産であり、これを活用しない手はないとい

う発言があった。トップス広島としても、2年前から大学生と連帯を図り、月1度発行しているトップスニュースの編集協力とトップス広島の事業及び加入クラブのイベント等への参加の機会を提供している。また、広島のスポーツのリーダーの育成とトップス広島の活性化を図るということで、広島経済大学スポーツ経営学科と安田大学文学部の学生に月1回の会議に参加してもらって、いろいろ意見をいただいている。

学生の能力は大変なものがある。昨年、答申した広島市スポーツ振興計画が絵に描いた餅にならないためにも、事務局の皆さんも事務作業が大変だろうが、大学生を使っていくことを提案したい。

〔山本委員〕

トップス広島の活動と重複する部分があるが、うちのチームは、ハンドボールのアマチュア競技ということで、トップス広島に参加することによって、メジャーなサンフレッチェ、カープ、JT等の熱気をもらいながら、ハンドボールを知ってもらうチャンスとしている。

「DOスポーツ」は市の小学生の指導であるが、年間10校くらい行かせていただいている。普通の学校だけでなく、支援学校にも行っている。いろいろな形でいろいろな子どもにハンドボールを知ってもらい、楽しんでもらっている。選手たちにとってもいい勉強になるし、ハンドボールは全身運動なので、子どもにとっても、とてもいいスポーツである。

今、メイプルレッズの選手には地元出身の選手がいないので、できれば広島出身の選手を出したいという思いがある。チームとしてもジュニアチームの育成、小学生、中学生の育成まで行っている。市内に中学校、高校でハンドボールができるところが非常に少ない。中学校までは、クラブチームでも試合に参加できるので、うちのチームで指導にあたっている。4月から、以前までうちの選手、コーチをしていた者が山陽高校の先生となって、ハンドボールを指導しているので、小・中・高と市内でハンドボールができる環境ができたという感じである。

ハンドボールはオリンピックから随分遠ざかっているので、広島で選手を育成し、広島で活躍して、さらにオリンピックで活躍できる選手を出したいと思っている。

他に祭等いろいろなイベントから依頼されて出ている。これからも身近な競技となるよう努めていきたい。

〔宮原オブザーバー〕

小学校教育の中でも運動好きの子どもをたくさん育てていくことが、一番大事になってくるのではないと思う。市だけでなく、日本全体につながるわけだけれど、体育教育の充実、授業の充実によって、運動好きの子どもをしっかりと育てていかなければ、何にもならないのではないかと強く思った。しっかり頑張っていこうと思う。

〔小野副会長〕

平成23年8月にスポーツ振興法が改正されて、スポーツ基本法が制定された。職名も体育指導委員からスポーツ推進委員に変わり、職務内容もスポーツ推進のための事業実施に関わる連絡調整が加わった。ただ、これは前からやっていることではある。

協議会では、今年5月に創立50周年を迎えた。市民に我々の活動を知ってもらうため、今年の9月9日に記念イベントとして、ウォークラリーを行った。一般公募による参加者146組、555名の参加をいただき、白島小学校をスタート・ゴールに広島城、中央公園を歩いて楽しんでもらった。また、私たちの活動内容の記念誌も全ページカラーで素晴らしいものがで

きているので、機会があればご覧いただきたい。

先ほどスポーツ振興課長から報告事項で紹介いただいたが、12月8日に創立50周年記念大会を兼ねて、アステールプラザにおいて、研究大会が開催された。テーマも「これまでの体指、これからのスポーツ推進委員」として、松井市長にも出席いただいた。講演は陸上男子400メートル障害日本記録保持者で世界選手権2度銅メダルを獲得した為末選手を迎えた。その後、意見交換会も行われ、曾根先生にも助言者として御出席いただいた。

これからも多くの方に関わり、地域になくてはならないスポーツ推進委員を目指して、健康で明るく豊かな街づくりのために、活発な活動をしていけたらと思っている。

〔東川会長〕

私の4つ上の先輩で、広島の皆実高校から広島大学へ進学し、今、東京にいらっしゃる方がいる。その方は被爆2世で、被爆当時の両親のことを書かれた英語の本を出版され、その原稿が大英博物館に永久保存されることになり、先日、広島大学長表彰を受けられた。お祝いに一杯やりますかということで、お会いした。65歳くらいの方だが、元気一杯、夢一杯の方で、その時、しきりに、「東川君、夢をしっかり持ちなさい。夢をしっかり持って、その実現のために頑張ってくれ。何かあればすぐにでもとんでくるから」とおっしゃり、広島でいろいろなことに携わっている者に寄せる、広島への期待を非常に強く感じた。

そういう意味でいうと、国際平和都市広島を十分認識しながら、スポーツ振興計画を皆さんと一緒に策定した訳だけれど、先ほど山下委員からあったように絵に描いた餅で終わったのではいかがなものだろうか。今日も事務局から、「広島市スポーツ振興計画の概要」を出していただいたが、我々の一つの役目としては、こうした計画を提案したものが、どう動いているのか、あるいはどう動いてもらわないといけないのか。計画の実行へのチェックも計画的にやっていかないと、何がどうなってどうなったのかわからない。10年後、もう古くなりましたから見直しましょうということになってしまうと、全く税金の無駄になってしまうと思う。

是非、スポーツ推進審議会を十分活用していただいて、広島市の計画に基づいた様々な施策がどう展開されたいのか、これは見直した方がいいんじゃないか、これはすぐにやりましょうとか、多分いくつかあるだろうと思う。そういうことも私ども、微力ながら関わらせていただいて、一緒になって広島市のスポーツ振興に役立てればという思いを持っている。

次は3月末か4月くらいが予定と聞いているが、せっかく計画を策定している訳だから、その中のこれがこういう状況で進んでいるとか、何か具体的なものもお示しいただけると、我々も更なる提案もできるかもしれないし、あるいはちょっとどうだろうかというようなお互いの話し合いにも進展できるのではないかなと思う。

今後も、発展する会議にしていきたいと思う。

3 閉会